

新年の室礼しつれいの準備をしながら、しみじみと「日本は文化の国だなあ」と、美しい祈りや慣習をつなげてくれた先祖に感謝している。

来年は丁酉(ひのと・とり)の年回りで、「ひのと」とは草木の成長が充実し、いったん力を内に向けて蓄積していく状態を意味するという。酉は徳利とちりの象形文字で成熟を意味すると大字典にもある。また、鶏は古事記や日本書紀にも天の岩戸開きのはじまりが「長鳴鳥」の声高らかな長鳴きによって始まるように、天意を伝え、光を招く動物として尊重されてきた。

ということとは、来年はきつと円熟した輝きに満ちた年回りになるに違いないと、雑巾がけの

参院議員 山谷えり子



〈やまたに・えりこ〉サ
ンケイリビンダ新聞編集
長、国務大臣(国家公安委
員長・拉致問題担当相)な
ど歴任。1男2女の母。

う」「港町十三番地」「錆びたナイフ」「ケ・セラ・セラ」「メケ・メケ」などがヒットし、私は当時流行していたホットピングという遊具で街を飛び回っていた。団塊世代の子供たちは大人の苦勞もあまり知らずに押し合いへし合い、概ね愉快に過ごしていたように思う。いつの時代も人の世には喜怒哀楽があり、そこに文化の花実の種も埋まっているといえようか。

ロンドン、英国のブランド力向上に大いに貢献した。
日本は長い歴史と豊かな文化が地方各地で息づいている。伝統文化からファッション、マンガ、アニメなどのポップカルチャー、食文化、道の文化、生活文化、産業との結びつきなど世界を魅了する日本文化は未来を切り拓く潜在力をもっている。
年が明けると、武道館では恒例の全日本書初め大覧覧会・席書大会、鏡開き式・武道始めが

未来切り拓く日本文化の潜在力

腰の痛みも何のそので、大掃除に励んでいる。

60年前の丁酉は、経済は神武景気で曾野綾子、有吉佐和子、瀬戸内晴美、山崎豊子ら女性作家がデビューされた年とされている。曾野先生には大学時代に小説創作の講義でご指導もいただいたので、60年以上にわたる健筆に対し敬意と感謝を捧げたい。その時の曾野クラスからプロの小説家になった者は残念ながらまだいないけれど、クラス会を開けば「複眼でもものを見る見方や、『大説』でなく、『小説』を読む面白さを教わったねえ」と学友と懐かしんでいる。
流行歌では「東京だヨおっ母さん」「有楽町で逢いましょう

■ 解答乱麻 ■

文化関係の政策推進の会長をしている。日本の力の源は文化にある。2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向け、今後日本は4年間で20万件の文化プログラムなどを計画しているの、さまざまな人々とオールジャパンの体制づくりを走り回っているところである。

オリンピック憲章には、オリンピックズムとはスポーツの祭典とは書いていない。「スポーツは文化と教育と融合させること」と記されており、ロンドン大会では約18万件の文化イベントが行われ、約4300万人が参加した。うち18歳以下が6割という文化と教育をまさに融合させたオリンピックズムを世界に示し、

行われる。夫を亡くして数年間しよんぼりしていた私だが、文武両道の日本人として、これではならじと奮起し、50歳過ぎての再学習いで合気道と書道の文武両道を週に1、2度稽古し始めた。その時から十数年、先生と仲間のおかげで継続できている。年初の武道館で全国の同好の士と会えば、未熟なわが身を恥じつつも、なぜか奮い立つのもステキである。

日本の「道を求める文化」には、師匠がおられ、仲間があり、天戸開きの長鳴鳥が「カケコー」と励ますように鳴いてくれる心持ちがある。つくづく寿の国に生かされていることを感ずるのである。